

# 小学校社会科における 見学・観察を取り入れた問題解決的学習のデザイン

M14EP011

内藤 成子

## 1. はじめに

パターン化した社会科の授業を変えていきたい。これが研究の始まりである。これまで、社会科の授業における形式と実質のズレに課題意識をもっていた。授業が「調べる→考える→表現する」のように展開していても、「調べる」目的が明確でないため、その成果が「考える」まで結びつかなかつたり、「表現する」の内容にまだ「考える」余地を残しているにもかかわらず、発表して終わってしまったことが少なくなかった。特に、見学・観察を取り入れた場合にその傾向は強かった。学習指導要領に基づき、形式だけでなく実質においても問題解決的な学習を可能にしたい、問題について「調べる」「考える」「表現する」取組を通して「子ども一人一人が教師の指導のもとに知識や見方を主体的に獲得する授業」（北，2011:9）を実現したい、こうしたねらいから本研究を始めた。

昨年度の研究（内藤，2015）では、ワークシートの作成と活用を通して社会科の授業改善を行った。その成果として、子どもは、授業全体の見通しがもてたり、要点を整理することによって自分の考えを焦点化したりすることができること、また、学びの成果を、授業をふり返りながら自分の言葉でまとめることができることが明らかになった。そこで、本研究では、その研究を発展させ、問題解決的学習の活性化をめざした。見学・観察を取り入れた問題解決的な過程を通して子どもが主体的に社会の理解を生み出す学習のあり方を探ることとともに、そのような問題解決的学習を可能にする指導の手立てとして改めてワークシートに着目し、その作成・活用の方

法を具体的に明らかにすることを課題とした。

見学・観察を取り入れた問題解決的学習をどのように設計し指導するとよいか。勤務校の担任学級（第4学年）において単元「ごみはどこへ」を実践し、問題解決的学習とその指導（ワークシートの作成・活用）という両面から分析・検討を行うことにより、この問いに迫る。

## 2. 第4学年「ごみはどこへ」の学習の概要

### (1) 計画と実際

単元「ごみはどこへ」の指導計画では、見学をどこに位置づけると効果的かを考え、【問題づくり→調べる（見学）→考える→まとめる】という流れで、単元全体を構想した。見学前に学習に対する意欲を喚起し、予備知識をもたせた上で、見学を通して実際に確かめたいことや解決したい疑問など、じっくり問題づくりをしてから見学に臨もうと考えた。実際の単元展開を表1に示す。全体は大きく4段階で進み、見学は2段階目に位置づいた。

第1段階（問題の設定）では、「教室で一週間ごみ集めをしてみよう。どんなごみが出ているだろう？」という問いかけのもと、全員で学校（教室）でのごみ調べをした。並行して家庭でのごみ調べを行うことによって、ごみの種類や処理の方法についての関心を高めた。また、地域のごみステーションが設置されている場所や様子を調べ、地図づくりを行った。学校や家庭、市全体から出されるごみの種類と量を調べ、さまざまなごみが大量に出されていることや増え続けていることなどについて理解することができた。この段階では、調べたことを書き込む欄を設けたワーク

シートを使うことで、全員で同じ体験をすることにより、学習に対する興味・関心や意欲を高めることができた。とともに、全員での共通体験を通し、疑問に思ったことやもっと追究したいことを全体で共有し、それらをもとに身近なところから問題づくりをした。

第2段階（問題の追究Ⅰ）では、副読本や市のマニュアルなどを用いて、ごみのゆくえやごみ出しの細かいルールが存在について知ることから、ごみ収集の方法や清掃センター・最終処分場の存在について理解を進めたことによって、ごみは清掃センターでどうなるのか？という疑問をもつようになった。事前学習で疑問を醸成し、「どうしても見学に行きたい」「見学に行かないと疑問が解けない。」という気持ちが一番盛り上がったところに見学が位置づいたことになる（図1）。

見学には、「見たこと・聞いたこと」と「考えたこと」の欄が分かれているしおりを作成

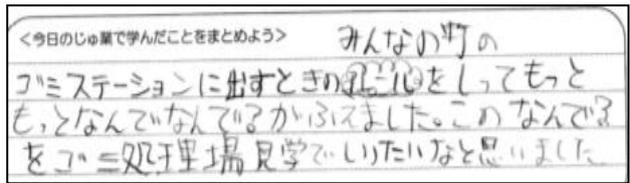


図1 見学前のA児の記述

し、見学中は、「見たこと・聞いたこと」を書かせた。見学後は、見学から得られた事実・データに基づいて「考えたこと」をじっくりまとめる時間を設けた。それによって、【調べる→考える→新たな問い】という流れをつくることができた。新たな問いを共通のハテナ(?)とし、解決を図るため、指導計画を見直し、修正した。表2のように新たに生まれた問いや気づきの中から、a「市指定のごみぶくろが使われるようになったのはなぜだろう？」とb「焼却炉では、どうして高温でごみを燃やしているのだろうか？」の2つを取り上げ、「清掃センターの見学から生まれたハテナ

表1 実際の単元展開

展開	小単元	問う	調べる	考える 表現する	理解する
問題の設定	学校ではどんなごみがどのくらい出ているのだろうか？	教室で、一週間ごみ集めをしてみよう。どんなごみが出ているだろうか？	・教室でのごみ調べ	【ワ1】	・紙やティッシュなど、燃えるごみが多い。まだ使えそうな紙もあるのでリサイクルした方がいい。 ・人が生活しているところには必ずごみが出る。
	家から出るごみを調べてみてわかったことは何か？	家では、どのような種類のごみが出ているだろうか？ （「南アルプス市のごみの量の移り変わり」のグラフからわかることは？）	・家でのごみ調べ ・ごみステーションの場所（学区の地図）	・ごみは、ごみステーションからどこへ行くの？ ・分別するのはなぜ？ 【ワ2】 話し合い	・いろいろな種類のごみがたくさん出る。 ・生ごみが多い。 ・資源ごみが出る。 ・ごみ出しにはルールがある。 （燃えるごみが多いが、ごみの量は減っている。 →ごみを減らそうとしているのでは？）
問題の追究Ⅰ（どのように？）	家から出たごみは、どのように処理している（出している）のだろうか？	ごみステーションに捨てられたごみは、どこへ行くのだろうか？ ごみ出し方には、どのようなルールがあるのだろうか？	・ごみ収集カレンダー ・ごみ収集車作業員の方の話 ・ごみのゆくえ（副読本） ・ごみ出しの細かいルール（南アルプス市ごみ分別収集マニュアル）	・ごみがたくさん出ると灰もたくさん出るし、燃やすのにお金がかかるのでは？【ワ3】 【ワ3】 話し合い	・ごみ収集の方法。 ・清掃センターでごみを燃やしている。 ・灰は最終処分場へ。 ・ルールを守ると、ごみステーションが清潔、清掃センターで危険なことが起こらない。 ・ごみを分別すれば、ごみが減るし、たくさんいいことにつながりそう。
	清掃センターの見学に行こう	ごみ収集車で運ばれたごみは、清掃センターでどうなるの？ 清掃センターの見学から考えたことは？	・清掃センターの見学 【ワ4】	【しおり】	・大量のごみが運ばれてきている。（わたしたちはたくさんごみを出している） ・大量のごみを高温で燃やしている。 ・茨城県最終処分場へ灰を運んでいる。 ・清掃センターができる前は、ごみをどうしていたのか？ ・市指定のごみ袋はいつから使われるようになったのか？ ・もっとリサイクルできそう 【しおり】
問題の追究Ⅱ（なぜ？）	市指定のごみ袋が使われるようになったのは、なぜだろう？		・市指定のごみ袋に記載されていること ・市指定ごみ袋の取り扱いに関する要項	【ワ5】 話し合い	・ごみ袋の有料化が、ごみを減らすための市の取組の一つである。
	焼却炉では、どうして高温でごみを燃やしているのだろうか？			・高温で燃やしてしまうのだから、分別しなくてもいいのではないか？ 【ワ6】 話し合い	・大量のごみを燃やすために高温にしている。 ・水分が含まれているから温度を上げている。
	なぜ、ごみ出しの細かいルールを決めているのだろうか？ *学習問題		・ごみ出しの細かいルール（南アルプス市ごみ分別収集マニュアル）	【ワ6】 話し合い	・細かいルールがある（分別する）ことで、ごみの量が減る。 ・ごみを燃やす燃料代も最終処分場への灰も減る。
問題の追究Ⅲ（どうする？）	ごみ出しの細かいルールとすばらしい清掃センターがあるから、ごみを出し続けても大丈夫だろうか？		・ごみを減らす工夫（副読本） ・「南アルプス市のごみの量の移り変わり」「南アルプス市の人口推移」のグラフ	【ワ7】 話し合い	・生活スタイルや人口の変化によりごみが増えている。ルールを作り、守ることによってごみを減らすことが大切。 ・5R…ごみを減らす工夫
	わたしたちができることを考えよう	ごみを減らすために、わたしたちには何が出来るだろうか？		【ワ8】 話し合い	・生活スタイルの見直し、分別、5R、税金を使ってごみを処理していることなどを一人一人が意識することが大事。 ・ごみを減らすための社会のしくみの大切さ

ナ(?)を解決しよう」とし、さらに追究を進めていくことになった。

表2 「考えたこと」の記述にあった問いや気づき

- ・なぜ、59.5mという高いえんとつなのか?
- ・焼却炉で燃やす温度は800~950℃  
→ どうしてそんな高い温度なの? b  
→ そんなに高い温度じゃないと燃えないの?
- ・音が大きかったけれど、近所に迷惑にならないのか?
- ・昭和50年に組合が作られたが、それまでごみはどうしていたのか?
- ・灰は埋め立て処分として、茨城県に運ばれている。  
→ どうして茨城県?
- ・ごみ袋はいつから使われるようになったのか? a  
→ じかもお金を払って買っている
- ・ごみクレーンからごみを落とすときの震動がすごい  
→ こんなにたくさんのごみが運ばれてくるんだ  
私たちはごみをたくさん出している
- ・分別って大事だ
- ・自慢できる清掃センターだ

第3段階(問題の追究Ⅱ)は、見学から生まれた2つのハテナ(?)の追究である。ハテナ(?)の追究では、ワークシートに自分の考え、他者の考え、板書されたものを自由に記述し、書きながら思考を整理していった。a「市指定のごみぶくろが使われるようになったのはなぜだろう?」の追究では、子どもたちは、「ごみ袋は便利だし、自分たちが出したごみを処理してくれるんだから、お金を払ってごみ袋を買うのは当然だ。」という考えでいたが、ごみはいらなくなった物、もう使えなくなった物であり、その処理にお金をかけるということについて、「捨てる物にお金を払うのか…」という声が出てきた。話し合いの中で、「お金がかかるから、なるべくごみ袋を使いすぎないようにした方がいい」ということになり、「だから、ごみを減らそうという気持ちになるんだ」と考えるようになった。ごみ袋の有料化はごみを減らすための市の取組の一つであるという理解を生むことができた。授業後、ごみ袋には2種類の大きさがあることやごみ袋に記載されている企業の広告についての気づきもあり、自分の身の回りの生活に目を向けた言葉が多くなった。

b「焼却炉では、どうして高温でごみを燃やしているのだろうか?」の追究では、見学で

聞いてきたことを受け、たくさんのごみを一気に燃やすため、生ごみの水分が含まれているために高い温度にしていると考えた。そこから、高い温度で燃やしたりするにはたくさん燃料が必要だから、それにはお金がかかるという考えも出てきた。ごみ出しの細かいルールの存在とも合わせて考えさせたことから、aの追究でごみ袋という個別のルールの理由・根拠を考えたことを踏まえて、改めてごみ処理に関わるルール全般へと視野を広げ、社会のしくみに小学校4年生なりに迫り、自分たちの言葉でまとめることができた。

第4段階(問題の追究Ⅲ)では、それまで学んできたことを受けて、わたしたちにできることを考えるという未来志向的な学習へと進めた。単元全体を通して大切だと思ったキーワードを挙げ、自分自身、家庭、地域、社会のしくみという視点で考えた。

## (2)子どもたちの追究意欲と理解の深まり

清掃センター見学時の質問タイムでは、次から次へと途絶えることなく質問が出され、想定時間を大幅にオーバーするほどであった。見学前の事前学習で、「疑問を解くために見学に行くのだ」という気持ちが高まり、見学への目的意識がしっかりと子どもたちの中で明らかにされていた。

そして、見学後も子どもたちの「追究したい」という意欲は持続し、ごみの増加を生み出した地域や社会の変化、ごみを減らすためのルールの存在など、社会のしくみの大切さにまで、子どもたちの理解が及び、社会のしくみの理解、経済的な感覚を育てることにつながった。

このように、単元「ごみはどこへ」では、見学・観察が有効に機能し、単元全体が活性化された。ごみの学習を通して、子どもたちの追究意欲は続き、また子どもたちの理解は社会のしくみの理解にまで及んだ。ごみの学習を通して、子どもたちは地域の社会について学ぶことができたと言える。

表3 単元のまとめの記述から (ワークシート8)

- ・細かいルールがあるからこそ、ごみを減らせると思う。
- ・これからは、まだ使えるものはすぐに捨てないで使うことを意識していきたい。店などにあるリサイクル用のごみ箱の意味がよくわかった。ごみを減らす工夫になっていることがわかった。
- ・ごみぶくろが有料なのは、なるべくごみぶくろを使わないようにしたいという気持ちにさせるものなんだ。細かいルールを守って、増え続けるごみを減らすことが大事だと思った。
- ・人口が増えると、ごみも増える。清掃センターはすばらしいけれど、増え続けるごみを少しでも減らしていく努力が大事だと思った。そのために有料のごみぶくろや5Rというとりくみがあるんだということがわかったので、自分もごみを減らすようにしていきたい。

以上のような本単元の成果は何によって生み出されたのかを、以下において分析・検討する。第3章では、子どもたちの理解が深まったのは、見学・観察を取り入れた単元の学習がどのように展開したからか、第4章では、そのような学習の展開を導くことができたのはワークシートをどのように作成・活用したからかを考察したい。

### 3. 問題解決的学習としての展開

#### (1) 見学・観察を取り入れた4段階の展開

この単元の学習は、表1のように6つの小単元からなっているが、大きくは図2のように4段階で進行した。

第1段階は、問題の設定である。第2段階は、ごみの収集や処理の現状について、「どのように」という問いを追究する追究Ⅰである。第3段階は、「どのように」の追究を踏まえ、さらに収集・処理の現状の理由や根拠について、「なぜ」という問いを追究する追究Ⅱである。そして、第4段階が、「どうする」という問いのもと、未来志向的に今後について考える追究Ⅲである。問題の設定から追究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲへと進み、現状からその理由・根拠、さら

に今後のあり方へと追究が深まっていった。

このような4つの段階による展開において、見学は第2段階の追究Ⅰに位置づいている。この「どのように」を追究する段階に見学を位置づけたことによって、見学が追究のために必要なものとなったとともに、見学そのものが充実したものになった。また、見学が充実したものとなったからこそ、「なぜ」という問いが生み出され、次の段階へと進んだ。単元展開の一連の過程において見学は有効な働きをしたと言える。

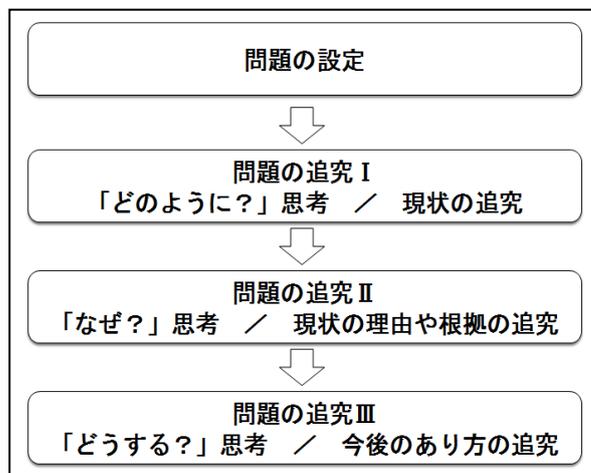


図2 4段階の単元展開

#### (2) 基本サイクルとしての

【<問う> ↔ <理解する>】

本単元では、表1の通り、個々の学習局面では、<問う>から<調べる><考える>に基づいて<理解する>へ進み、さらに次の<問う>へ向かうことが学習の基本サイクルになっている。

例えば、問題の設定場面において、「教室で一週間ごみ集めをしてみよう。どんなごみが出ているだろう？」という問いにより、学校（教室）でのごみ調べを行った。そして、調べた結果が意味していることを考え、人が生活しているところには必ずごみが出るという理解を生み出し、そこから「家では、どのような種類のごみが出ているだろう？」という

問いへと進んだ。また、その問いのもと、家でのごみ調べやごみステーション調べを通して、ごみを分別しているけれど、どうして分別しているのか、ごみステーションからどこへ行くのかと考え、ごみ出しにはルールがあるということの理解へと進んだ。

個々の学習局面に〈問う〉があり、問いがあるからこそ調べ、考える。〈問う〉ことによって調べ、考え、〈理解する〉へ向かい、それによってさらに新たに〈問う〉へ向かう。〈理解する〉で終わらず、それを踏まえて次の〈問う〉へ向かうことが、個々の学習局面のポイントとなっている。

### (3) 〈問う〉と〈理解する〉の相乗的往還に基づく問題解決的な学習展開

本単元では、表1の通り、最初から最後まで、〈問う〉、〈調べる〉、〈考える〉、〈理解する〉による基本サイクルが学習の進行にそって何巡も繰り返された。〈問う〉と〈理解する〉とが何度もジグザクに反復する展開となり、〈問う〉と〈理解する〉が相互に高め合い続けていく相乗効果を生み出し、学

習が深化していった。ごみの収集・処理の現状から、その理由・根拠、さらに今後のあり方へと子どもたちは追究を進めていった。

単元「ごみはどこへ」は、問題の設定から問題の追究Ⅰ、追究Ⅱ、追究Ⅲへと進んだ。その過程を通じて子どもたちの意欲は持続し、追究は進み、子どもたちの理解は深まっていた。それは〈問う〉と〈理解する〉の相乗的な往還に基づくものである。この相乗的な往還の中で子どもたちは単元全体を通じて問い続け、問題解決的な学習を生み出し、理解を深めていった。

このような問題解決的な学習はどうすれば可能になるか。一つの重要なアシストとして、以下に述べるワークシートの作成・活用が挙げられる。

## 4. 問題解決的学習のためのワークシートの作成・活用

本単元では、全体を通じてワークシートを作成・活用した。4段階の単元展開にそって、作成・活用の方法と効果について一覧表にま

表4 ワークシートの作成・活用の方法と効果

	キーワード	作成		活用				効果
				子ども		教師		
問題の設定	問題づくり 見学への意欲喚起	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べて書き込む欄を設ける</li> <li>板書と連動させて記述する欄を設ける</li> <li>見学の視点や見通しをもたせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最下部に〈今日の授業で学んだことをまとめよう〉欄を設ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しをもつ</li> <li>問題をつかむ</li> <li>見学への意欲を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思考や理解を整理する</li> <li>自分の成長を振り返ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの興味・関心の高まりをつかむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの理解状況を把握し、次の問題へとつなげる</li> <li>〈理解する〉→〈問う〉のラインをつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対する興味・関心を高める</li> <li>見学の視点が焦点化され、これからの学習の見通しをもつことができる</li> </ul>
問題の追究Ⅰ	問いのたしかめ 「見たこと・聞いたこと」／「考えたこと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「見たこと・聞いたこと」／「考えたこと」の欄を設ける</li> <li>見学中から見学後へと利用を順序づける</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>事実に基づいて考え、理解や疑問を生み出す</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの理解状況と新たな問いをつかむ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>〈調べる〉↔〈考える〉を可能にする</li> <li>事実に基づいて考えることを促す</li> </ul>
問題の追究Ⅱ	新たな問いの追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書されたもの、自分の考え、他者の考えなどを自由に記述できるスペース（罫線無し）を設ける…考える場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最下部に〈今日の授業で学んだことをまとめよう〉欄を設ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の学習や成長など、思考の歩みを残す</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>〈考える〉と〈表現する〉とが一体的に行われる</li> </ul>
問題の追究Ⅲ		<ul style="list-style-type: none"> <li>罫線を引いた欄を設ける</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの理解状況を把握する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを文章化して表現できる</li> </ul>

とめたものが、表4である。ここでは紙幅の関係から、【問う→調べる】、【調べる→考える】、【考える→理解する】のそれぞれにかかわる代表的なワークシートに焦点化して取りあげる。また、その上で、ワークシートの作成・活用に共通するポイントについても触れることにする。

### (1) 【問う→調べる】のワークシート

【問う→調べる】にかかわるワークシートの代表例として、第2段階における見学前のワークシートについて取りあげる。

このワークシートは、問題づくりや見学への意欲を喚起することを目的として作成した。調べて書き込む欄を設け、全員で同じ体験をすることにより、学習に対する興味・関心や意欲を高められるようにした。また、見学直前のワークシートは、図3のように、見学に行き、何を見て、何を確かめてくるのか、見学の視点や見通しをもたせようと考えた。ワークシートによって、個々の興味関心に加え、どういうものをどういうふうに見てくるのかという見学の視点を明らかにし、見学後の学びへとつなげられるようにした。

☆ 見学のポイント

<p>&lt;ごみのもやし方&gt; ごみはどのように出すか? どのくらい時間か? どんな機械を使っています?</p>	<p>&lt;ごみのすがたの変化&gt; もやしごみはどのように変わりますか?</p>	<p>&lt;ごみしよりの様子&gt; けしりは出さないのか? においはいらないのか? かん気ではないのか? えんどう?</p>
---	---	--

清掃センターを見学して、疑問を解決しよう!

<今日のじゆ業で学んだことをまとめよう>

ごみを分別する理由をはやく知りたかったです。明日の見学がもっと楽しくなりました。明日の見学で目・耳・鼻・舌フルに使ってごみをばやかくわしたいと思います。

図3 見学の視点を明確にするためのワークシートの一部

安彦ら(2008)は、「地域学習のよさは、子どもが具体的な事象を直接見たり、聞いたり、触れたりなどして、観察や調査を進めることができることにある。地域学習を通して自分

の力で問題を解決していく力は、社会科学習の基本となる大切なことだが、中学年なりに社会の見方や考え方が育つ手立ても組み込まないと、単に調べまわるだけの学習になりかねない」としている。体験することが目的となって、見学・観察が一つの行事で終わることのないように、また、子どもたちが問題意識を醸成させられるように、事前学習において、問題解決を始動させるためのスタート部分(問題の設定)におけるワークシートを作成し、活用した。

見学・観察をはじめ、調べる活動を行う際には、何のために調べ、何を明らかにしたいのか(問題意識の明確化)、それをどのように調べるのか(学習計画の立案)についてなど、見通しを持って学習を進めることが重要になり、そこにワークシートの有効な活用が期待できる。

### (2) 【調べる→考える】のワークシート

【調べる→考える】にかかわるワークシートの代表例として、第2段階における見学中・見学後のワークシート(しおり)について取りあげる。

見学中は、問いのたしかめのためのワークシートとして、見学のしおりを作成した。それが図4である。単なる印象ではなく、見学によって得た事実やデータに基づいて考えることを促進させるために、「見たこと・聞いたこと」と「考えたこと」の欄を分けたしおりを作成し、見学中から見学後へと利用を順序づけた。

しおり中の「見たこと・聞いたこと」の欄は自由に書き込めるようにした。しおりに書いたことを友達と共有したり、その場で出たハテナについて交流したりという、しおりを介してのやりとりも見られた。

見学直前に見学の視点を確認しても、子どもたちは見学先にて説明されたことや目にしたことを一字一句正確に、事細かくしおりに書こうとしてしまうこともある。書くことに

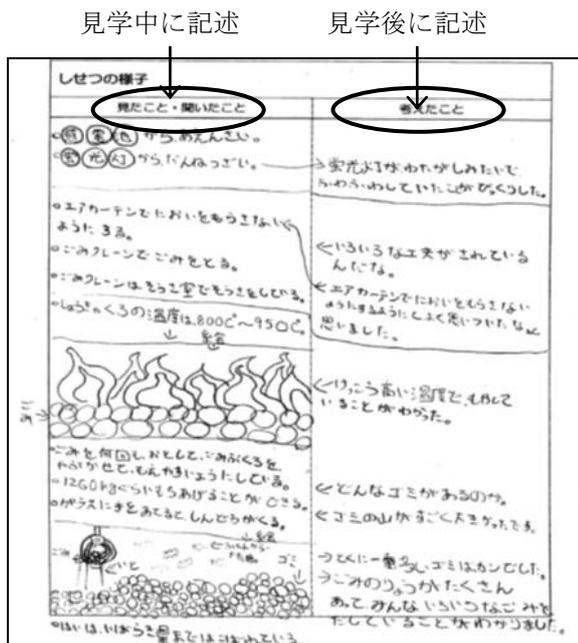


図4 見学のおしり（記述済み）

追われてしまうのである。改善策として、見学直前のワークシート（図3）にて確認した見学の視点をしおりに入れておくという方法も考えられる。

見学・観察で使用したこのしおりを見学・観察後も引き続き使用した。「見たこと・聞いたこと」の整理やふり返し、そして「考えたこと」をじっくり書き込むことによって、調べる→考える→新たな問いという流れが生まれ、問題の追究Ⅰから追究Ⅱへ進めることができた。しおりは、「見たこと・聞いたこと」と「考えたこと」の欄を分けたことによって、見学中に気づいたことに基づいて見学後に考え、理解を生み出したり疑問を立てたりすることができたと考えられる。図5のように、付箋を使うことで自分の思考をふり返ったり整理したりする例も見られた。調べる ⇔ 考えるを可能にしたしおりにあつたと言える。

見学中・見学後のワークシート（しおり）のように、【調べる→考える】のワークシートは、ただメモをとるだけのものではなく、その後の学習に発展させられるものであることが重要である。調べて考えたことによって新

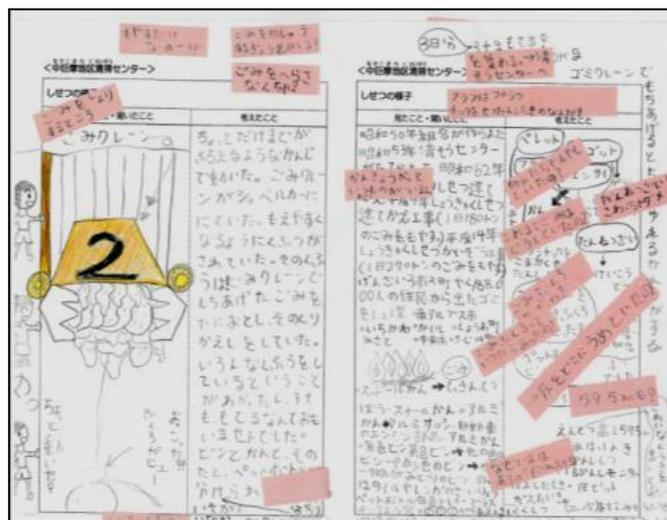


図5 問題の追究Ⅰにおけるワークシートの一部

たな問いが生まれ、次の学習へとつなげることができ、子どもたちの問題意識が継続し、思考が深められていく。

### (3) 【考える→理解する】のワークシート

【考える→理解する】にかかわるワークシートの代表例として、第3段階や第4段階において思考を整理する場面で使用したワークシートについて取りあげる。

それは図6のワークシートである。このワークシートは、板書されたもの・自分の考え・

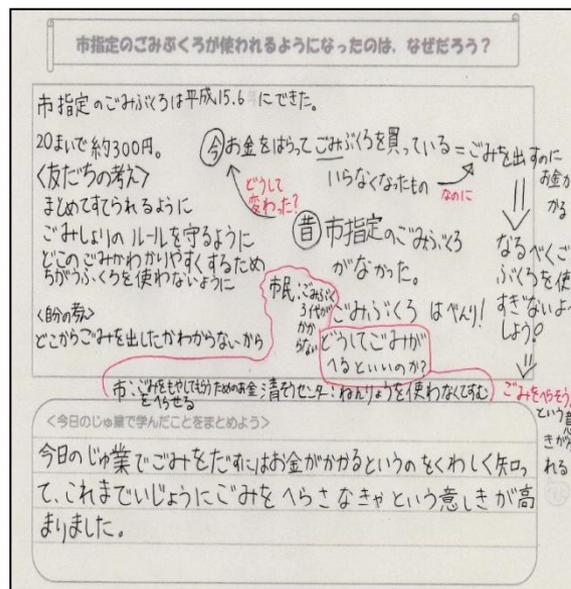


図6 問題の追究Ⅱにおけるワークシートの一部

他者の考えなどを自由に記述できるスペースを設けた。自分のもっているイメージを大切にしながら、書くことで考えを整理したり、深めたりできるようにした。「考える」と「表現する」が一体的に行われていることがわかった。

また、問題の追究Ⅲでは単元のまとめとして、「ごみを減らすために、わたしたちには何ができるだろうか？」と考えた。ワークシートには罫線を引いた欄を設けた。罫線を引くことによって、書きながら整理するのではなく、自分の考えを文章化して表現できるようにした。

新たな問いの追究場面でのワークシートのように、【考える→理解する】のワークシートは、罫線の有無によって、書きながら思考を整理させたり、しっかりと自分の考えを文章化させたりした。子どもたちにどのような活動をさせたいかという教師のねらいに応じて、ワークシートの形式を考える必要がある。

#### (4) 作成・活用の共通ポイント

問題解決の過程において、見学・観察を有効に機能させ、単元の学習全体を活性化させるための手立てとしてワークシートに着目し、昨年度得られた成果を加味しながらワークシートを作成した。

ワークシートはこのように、問題解決的学習を導く教師のねらいに応じて、作成・活用することが重要である。

また、見学のしおりを除くすべてのワークシートに共通するポイントとして、<今日の授業で学んだことをまとめよう>という欄を設けた。【問う→調べる】、【調べる→考える】、【考える→理解する】の何れの場面でも、子どもが自分の思考や理解を整理し、授業をふり返りながら自分の言葉で学びの成果をまとめることができるようにした。教師は、その記述から子どもの理解状況を把握でき、新たな問いへ、とつなげることができる。見学のしおりの「考えたこと」欄への記述について

も同様のことが言える。このように作成・活用することによって、【理解する→問う】というラインを生み出すことができるのである。

#### 5. おわりにー研究の成果と課題

<問う>と<理解する>の相乗的な往還の中で、子どもたちは単元全体を通じて問い続け、問題解決的な学習を生み出し、理解を深めていった。問題の追究の中に、見学・観察を効果的に位置づけることによって、子どもの理解が深まり、主体的に社会の理解を生み出すことにつながるということが確認できた。このような単元展開を可能にする指導の手立てとして、ワークシートの作成・活用の方法を探った。子どもたちが、教師から与えられた情報を理解し、覚えるのではなく、問い、調べ、考え、理解し、さらに問うことが大事であり、それらを促すことで問題解決的学習を導いていくためのワークシートの工夫に関して成果を得ることができた。本研究の成果を活かすとともに、さらに問題解決的学習やその指導のよりよいあり方を問い続け、社会科授業の改善をめざしていきたい。

#### 6. 引用文献、参考文献

- ・安彦忠彦監修 片上宗二・柳下則久編著(2008) 小学校学習指導要領の解説と展開社会編 教育出版
- ・池野範男他(2013) 社会科の新しい使命 日本文教出版
- ・北俊夫・澤井陽介編著(2011) 新社会科“調べ考え表現する”ワーク&学び方手引き4年 明治図書
- ・文部科学省(2008) 小学校学習指導要領解説社会編 東洋館出版社
- ・内藤成子(2015) 「学習内容の定着をめざす授業改善に関する研究ーワークシートの有効な活用を通してー」山梨大学大学院教育学研究科教育実践研究報告書 158-160
- ・東京学芸大学社会科教育学研究室(2012) 小学校社会科教師の専門性育成改訂版 教育出版